

[Kamine × Chronos 日本版]

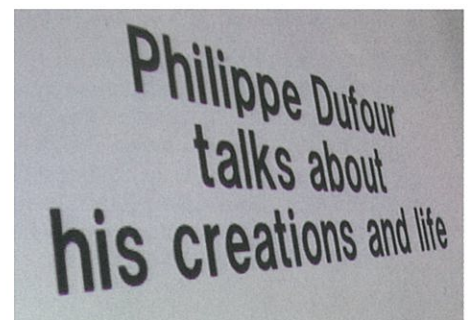
『フィリップ・デュフォー スペシャルトークセッション』

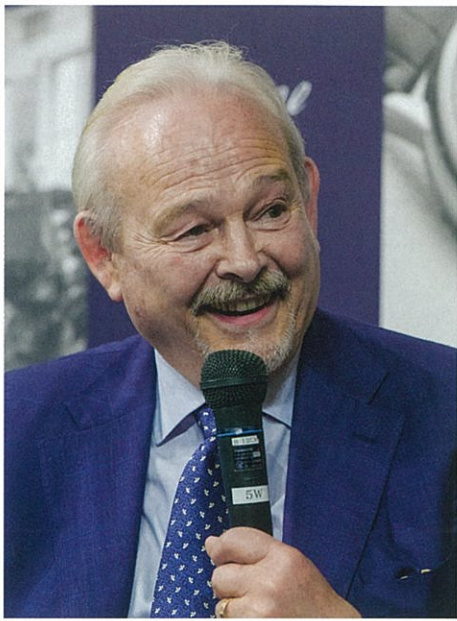


フィリップ・デュフォーが 今伝えたい想い

去る5月10日、神戸の高級時計宝飾店カミネと『クロノス日本版』の共催で“フィリップ・デュフォー スペシャルトークセッション”が開催された。独立時計師として多くの時計愛好家から熱狂的に支持されているフィリップ・デュフォー氏。その名声は、彼が2000年に発表した傑作機「シンブリシティ」によって確固たるものになったと言っても過言ではあるまい。そのデュフォー氏が、2007年以来、約8年ぶりに来日することになり、その貴重な機会に合わせて、多くの時計愛好家を招き、このスペシャルイベントは実現した。約1時間のトークセッションの進行役を務めたのは、本誌主筆の時計ジャーナリスト、広田雅将氏。デュフォー氏と彼を招いたカミネ代表取締役社長の上根亨氏の3人が語り合う、高級時計にまつわる深遠なる話題の数々。すでにwebChronos上では、その一端を披露しているが、そこではまだ語られていないさらに濃密なトークショーの“本編”を誌面上に再現する。

嶋田敦之、奥山栄一、吉江正倫:写真
Photographs by Atsuyuki Shimada, Eiichi Okuyama, Masanori Yoshie
鈴木幸也(本誌):取材・文
Text by Yukiya Suzuki (Chronos-Japan)





フィリップ・デュフォー氏

1948年にスイスのル・サンティエに生まれる。67年、時計学校を卒業後、ジャガー・ルクルトへ入社。ヴァンション・コンスタンタンの複雑時計部門を経て、78年に時計師として独立。92年のパーゼル・フェアにおいて自身が手掛けた「グランブチソネリ ミニッツリピーター」が技術部門で金賞を受賞。96年、ふたつの脱進調速機を持つ「デュアリティ」を発表。そして、2000年のパーゼル・フェアで「シンプリシティ」を発表し、その名を世界の時計業界に知らしめ、名声を確固たるものとした。

「PD 確かに、ヨーロッパに比べて、アジアの、特にシンガポールと日本のお客様は非常に優れた知識をお持ちです。これは優秀なジャーナリストがいるというのがありますし、インターネットの影響もあると思いますが、そういう点において、こうした熱狂的な時計愛好家の声が大きくな国だと思えます。」



上根亨氏

約8年ぶりの来日を果たしたフィリップ・デュフォー氏を神戸に招き、「フィリップ・デュフォー スペシャルトークセッション」を本誌と共催したカミネ代表取締役社長の上根亨氏。

「HM この会場にいる皆さんのことですね、仕上げに対して非常に厳しいのは。PD 確かに、ヨーロッパに比べて、アジアの、特にシンガポールと日本のお客様は非常に優れた知識をお持ちです。これは優秀なジャーナリストがいるというのがありますし、インターネットの影響もあると思いますが、そういう点において、こうした熱狂的な時計愛好家の声が大きくな国だと思えます。」

「HM ジュウ渓谷で古典的な時計を作られているデュフォーさんのシンプリシティは発表から今年で15年ですが、会場に展示されているカミネさんが所蔵する1本はシンプリシティの中でもユニークピースの特別なモデルですね。世界で唯一作られたモデル。上根さん、初めてデュフォーさんのシンプリシティを見た時、どう思われましたか。」

「HM ジュウ渓谷で古典的な時計を作られているデュフォーさんのシンプリシティは発表から今年で15年ですが、会場に展示されているカミネさんが所蔵する1本はシンプリシティの中でもユニークピースの特別なモデルですね。世界で唯一作られたモデル。上根さん、初めてデュフォーさんのシンプリシティを見た時、どう思われましたか。」



広田雅将氏

今回のトークセッションの司会進行を務めた時計ジャーナリスト、広田雅将氏。上根亨氏同様、フィリップ・デュフォー氏の古典的な時計製造手法に注目し、取材を重ねてきた。

「HM シンプリシティですごく興味深いのは、昔存在した腕時計のムーブメントでもこれだけ凝った仕上げを持つことですね。彼は快く引き受けてくれました。この時計は売らないと決めています。長年商売をしていながら、ものを売らない経験を初めてしたという、思い出深い時計です。実は来年、私のお店が110周年を迎えるにあたって、限定時計を製作するプロジェクトを始めます。デュフォーさんの流れを汲んだ110周年の時計を皆様にお披露目できるその日が来ることを楽しみにしております。同じようなエッセンスを持ち、やはり時計というものは長年にわたって皆様の手で愛され続けることが一番大事ですから、そういう点をモチーフにした非常にシンプルな限定時計を110周年の作品に考えております。」

「HM シンプリシティですごく興味深いのは、昔存在した腕時計のムーブメントでもこれだけ凝った仕上げを持つことですね。彼は快く引き受けてくれました。この時計は売らないと決めています。長年商売をしていながら、ものを売らない経験を初めてしたという、思い出深い時計です。実は来年、私のお店が110周年を迎えるにあたって、限定時計を製作するプロジェクトを始めます。デュフォーさんの流れを汲んだ110周年の時計を皆様にお披露目できるその日が来ることを楽しみにしております。同じようなエッセンスを持ち、やはり時計というものは長年にわたって皆様の手で愛され続けることが一番大事ですから、そういう点をモチーフにした非常にシンプルな限定時計を110周年の作品に考えております。」

「HM シンプリシティですごく興味深いのは、昔存在した腕時計のムーブメントでもこれだけ凝った仕上げを持つことですね。彼は快く引き受けてくれました。この時計は売らないと決めています。長年商売をしていながら、ものを売らない経験を初めてしたという、思い出深い時計です。実は来年、私のお店が110周年を迎えるにあたって、限定時計を製作するプロジェクトを始めます。デュフォーさんの流れを汲んだ110周年の時計を皆様にお披露目できるその日が来ることを楽しみにしております。同じようなエッセンスを持ち、やはり時計というものは長年にわたって皆様の手で愛され続けることが一番大事ですから、そういう点をモチーフにした非常にシンプルな限定時計を110周年の作品に考えております。」



デュフォー氏が手掛けたシンプルシティのムーブメント。古典的な手法にのっとり手作業で仕上げられたムーブメントは、工業製品でもある現代の機械式時計には真似のできない壮麗な美観を持つ。その大きな特徴は受けの面取りに施された幅の広い「ブラックポリッシュ」。完璧なる研磨面だからこそ可能になる歪みのない漆黒の光沢をこう呼ぶ。また、歯車の歯先の研磨の深さも、機械加工で切削される量産品の歯車には決して見られない。

く磨けるように、最初から丸い形にしかできないように設計されているのです。
 KT 磨いている材料ですが、彼の印象深い話でジャンシャンという小さい木があるんですね。軟らかい木なんです、その根を材料に、それを使って磨くんですね。金属に対して木で磨くというのは余計に時間がかかります。ジャンシャンで昼間は時計を磨いて、その根からとれるリキユールで夜も楽しんでいられるという話が、デュフォーさんの思い出のひとつになっています。とにかく時計を作るのにあえて手間をかけてやっているというところにも驚いたのがシンプルシティとの出会いです。より遠回りをして時計を完成させていくのです。

スイス、ル・サンティエに拠点を置く自身の工房で、2000年のバーゼル・フェアで発表した「シンプルシティ」を手にするフィリップ・デュフォー氏。彼の代表作にして傑作である。



自分の持てるノウハウを後世に残すという義務

HM 古典的な仕上げの手法というのはデュフォーさんが時計作りを始めた頃にはもうほとんど消えかかっていたし、今ますます消えようとしています。デュフォーさんは若い時計師を養成していますが、それについてもお話を聞かせ願えますか？

PD 人間として地球に生まれてきたからには、自分が持っているノウハウを何らかのカタチで後世に残すというのが義務だと思います。その点において、私は自分のノウハウを若い人に継承するという努力をしています。

HM 面白い話があるんですが、セイコーエプソンはクレドールの高級ライン「観智」などを作っています。実はあの仕上げ、デュフォーさんが教えたんですよね？

PD 時計師の世界は大きな家族だと思ってください。日本人の時計師が訪ねてきて、スイスの時計師に何を聞くと聞きますか？ セイコーエプソンの職

ッノが出っ張った部分があるんですが、そこが一番難しいんじゃないかと思えます。

PD おっしゃる通りです。

HM 完全に手仕上げですが、やはりここまでのレベルの仕上げというのは手作業でないと無理なんですか？

PD 無理です。例えば、ふたつの角が入り込んでいる場合はその角がはつきりと一線にならないといけない。その戻りで鋭角に切ることになると、電動の研磨工具をそのまま当ててしまうと回転研磨材の丸みしか出ないんです。だから、戻り角を鋭角に切っているのは量産ムーブメントの受けではもはやなくなってしまうって、丸くなっています。時計メーカーでも、設計士に会社の方から角を入れるなどという指示が出ているという話も聞いたことがあります。電動研磨工具で全部丸



2006年、カミネ創業100周年を記念して、フィリップ・デュフォー氏を敬愛してやまない上根亨社長が製作を依頼し、デュフォー氏とその情熱に応じて製作したシンプルシティのユニークピース。文字盤には「Kamline 100th Unique piece」と誇らしく印字されている。



人が何人か来て、うちで勉強していき
ました。その後、日本でどんな仕事を
しているのか見学しにも行きました。
HM どうでしたか？

PD スプリングドライブを搭載した
ブラチナ製ケース、白磁の文字盤のク
レドールの「叡智」。あれはスゴいです
ね。

HM 確かにあれは傑作です。あの時
計にはデュフォーさん直伝の仕上げが
盛り込まれています。古典的な仕上げ
は、昔はそこまで受け入れられなかっ
たのですが、例えばセイコーエプソン
にしろ、ローマン・ゴティエやグルー
ベルフォルセイにしても、受け継ぐ人
が出てきたことについてデュフォーさ
んはどう感じますか？

PD 努力する人が増えたんじゃない
でしょうか？ ジュウ渓谷で2年前
に、手作業で面取り加工がちゃんとで
きる時計師がひとりもいなくなっ
てしまったというので、あのデュボア・デ
ブラが引退した時計師を招いて特別講
義をしました。

いかに美しく仕上げるか
見えない箇所に
なせ手を入れるのか

HM デュフォーさんと上根さんのお
ふたりに伺いたいんですが、今デュフ
オーさんが話されたのは古典的な時計
作りです。一方で工作機械がすごく進
歩して、そのおかげで私たちは優れた
時計を手にするができるようにな
りました。古典的な時計作りと、現代
的な時計作りというのはどこで折り合
いをつければいいのか、おふたりはど

うお考えですか？ 僕個人は工作機械
の進歩はすごく良いことだと思っ
てますね。

PD 機械的に何も役に立たない部分
が手仕事の良い点。もうちよつと言
いますと、ネジ頭をきちつと磨いても精
度が上がるわけではないですね。時
計ってどこから見ても、後ろから見
ても前から見ても、どの部分も美しくな
ければいけない。ですから先ほどの質
問に戻りますと、立派な工作機械で形
を作って、仕上げを手でやれば良い時
計になります。



今回のトークセッションの中で話題に
上ったフリリップ・デュフォー氏の薫
陶を受ける独立時計師、ローマン・ゴ
ティエ氏が手掛けた作品。デュフォー
氏がガル・サンティエで実践する古典
的な時計製作とその精神を受け継ぐ。
「wg/pc-2206Hms」。650万円。@カ
ミネ 旧居留地店 ☎078-325-0088

1990年の東西ドイツ統一後、念願
の復興を果たしたドイツ・グラスヒュ
ッテに拠点を置くA.ランゲ&ゾーネ
が、1999年に発表したクロノグラフ。
見る者の目を離さないほどの美観と
存在感を備えるムーブメントの圧倒
的な構築美は、瞬く間に世界の時計
業界の注目を集めた。ドイツ製だが、
スイスを代表する時計師であるデュ
フォー氏が当初からその魅力を見抜
き、的確に評価。しかも自ら購入し
たことから、一部の愛好家の間では
“デュフォグラフ”という愛称で呼ば
れているという。参考商品。



**ヴァシュロン・コンスタンタン
ハーモニー・クロノグラフ・グランド・
コンプリケーション・エクストラフラット**

創業260周年を記念した新コレクション「ハーモニー」に新規設計の自動巻きスプリットセコンドクロノグラフを搭載。ヘリフェラルローターを採用することで、ムーブメントの厚さを5.2mmに抑え、薄型化を実現。市場に存在する自動巻きスプリットセコンドクロノグラフで最薄。自動巻き(Cal.3500)。47石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約51時間。Pt(縦52×横42mm)。非防水。世界限定10本。予価3880万円。ブティック限定商品。©ヴァシュロン・コンスタンタン ☎0120-63-1755

HM 例えば、ランゲのダトグラフがそういう例ですか？
PD ランゲは私も工場見学をしましたが、たくさんの女性が面取り加工をしています。
HM ですので、あれは工作機械でちゃんと作って手作業で仕上げているところと、うまく折り合いをつけているなど思います。上根さんはどう思われますか？
KT この数年来、高級時計は飛躍的に進化していると思います。高級化した工作機械が登場した背景に、いかに美しく仕上げるか、見えない箇所になぜ手を入れるのか、そういう点が工作機械を開発する過程で価値観として生まれてきて、工作機械そのものが非常に高度化、高級化した。つまり、設備

投資にそれだけ高いコストをかけるようになったのではないかと思うんです。その代わり、手作りに極めて近い領域まで工作機械で時計を作ることができるようになった。ただ一番大事なのは、最後の仕上げはこのブランドも、たとえ非常に優れた工作機械で作ったとしても必ず手を入れるんですね。そこに各ブランドの個性が際立ってくる。そこに至るまでの基礎的な部分を作り上げる工作機械の発展には、デュフォーさんのシンプリシティが果たした価値観の影響が非常に大きいのではないかと思います。
HM 例えば、ジュネーブ仕上げに言えますが、部品の表面が平滑じゃないと装飾がきれいに出来ないですね。ペルラージュも同じです。明らかにきれ



いになったのは工作機械の進歩がその一因とは言えると思います。以前は熟練工にしかできなかったことです。
KT ですから高級化して価格が上がると、高いと思われる方もいらっしゃると思いますが、十数年前と比較すると、価格に対してとんでもなくすごいものが生まれてきていて、ムーブメント自体の品質が向上し、それによってもたらされた時計の完成度の高さや長寿命化が次々と実現しているため、最終的には消費者の利益になっていると私は思います。
HM 工作機械と手作業の工業化のところで今の時計は難しい点を両立しようとしています。そういった時計がどんどん増えていますが、デュフォーさんが今年の新作や最近の現行品の中でこれはよく出来ているなどというものがあつたらお聞かせ願えますか？

フリリップ・デュフォー

注目の新作時計

PD S.I.H.H.とパーゼルワールドの中で記憶に残るものは、ランゲのちよつと女性っぽいんですけど素敵なものがありました。
HM サクソニアの35mmですね。
PD これは大きさからいっても、仕上げからいっても美しいです。
HM あれはケースに対してムーブメントの大きさが適切ですね。
PD 中身がいっぱい詰まっていますね。

HM そうなんです。
PD それからヴァシロン・コンスタンタンのハーモニー・クロノグラフ・グランド・コンプリケーション・エクストラフラット。クッション型で、スプ

リットセコンドが付いているのに割と薄手なケースですね。あとはモリッツ・グロスマンの直径36mmの新作に、パテックフリリップの男っぽいパイロットウォッチ。
KT 今年、賛否両論で大議論になったパテックフリリップの新作ですね。あの時計に対して、デュフォーさんがあれは素晴らしいんだと言ったものだから、その柔軟性には私に驚きました。
PD パテックらしくなくて男性的でいい。

他人の仕事

認めることができる
というのは大切なこと

KT 今日は、デュフォーさんに時計を持ってきていただいて陳列してあります。加えて、カミネ100周年記念のシンプリシティと、デュフォーさんの縁の地、ジュウ溪谷由来のブランドの時計もお持ちしています。ただ唯一、グラスヒュッテの時計が交ざっています。なぜダトグラフがここにあるかと申しますと、ダトグラフが発表された直後、デュフォーさんがダトグラフを絶賛して、自腹で初めて時計を買ったと、それをやら自ら自慢していた時期がありました。その話をずっと覚えていてまして、彼のコメントに敬意を表してダトグラフも陳列しているんです。
PD 一言だけ言わせていただきますと、スイスでは黒文字盤のダトグラフのことを「デュフォグラフ」と呼びます。

HM 本当ですか？
PD みんな「デュフォグラフ」と言っています。
HM デュフォーさんが持っているか



パテック フィリップ
Ref.5524 カラトラバ・パイロット・トラベルタイム

往年のパイロットウォッチをモチーフにした今年大きな注目を集めた新作。視認性の高い文字盤に操作性を考慮した外装の設計、加えて誤操作防止の安全装置も備え、話題性だけでなく、その実用性には一切の妥協もない。自動巻き (Cal.324 S C FUS)。29石。2万8800振動/時。パワーリザーブ約45時間。18KWG (直径42mm)。3気圧防水。535万円。@パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター ☎03-3255-8109



A.ランゲ&ゾーネ
サクソニア

今年、目利きたちの間で注目され、高い評価を得ているのが、サイズダウンされたサクソニアだ。手巻きのこのモデルはケース径35mmまで縮小され、直径25.6mmのムーブメントとのバランスも最適化された。しっかりとインデックスに届く分針も手堅さを物語る。手巻き (Cal.L941.1)。21石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約45時間。18KRG (直径35mm)。3気圧防水。171万円。@A.ランゲ&ゾーネ ☎03-3288-6639



カミネ トアロード店

営業時間 / 10:30~19:30(無休)
Tel.078-321-0039
〒650-0021 兵庫県神戸市中央区三宮町3-1-22

らデュフォオグラフ、なんですか？
PD フォーラムなどでもみんな言いますよ。
KT デュフォォーさんが買ったのが黒文字盤のダトグラフなんですよね。
PD 新品を買ったのは一生に1回です。ジユウ渓谷で生まれた生粋のスイスの私にとって、世界で一番美しいクロノグラフがドイツ製だというのは複雑な心境なんです。でも、他の人の仕事をきちんと認めることができるというのは大切なことです。これは素晴らしい、じゃあもつとやってやる、この気持ちが大変なんです。
HM 最後に、デュフォォーさんから一言お願いします。
PD こうしてたくさんの人に来ていただけるのは本当にうれしく思います。感動で声が詰まります。こうした気持ちになれる所は、実は日本しかないんだと思います。作る人の気持ち、作る人の心構えが分かるのは日本人だけではないかと思います。それから、今日は自分の作った作品を何本か見ることができて、本当にうれしかったです。私の可愛い子供たちを着けていただいていたことがありがとうございます。また皆さんにお会いできることを心から願っております。メルシーボークー。
KT それでは皆さん、デュフォォーさんとまた次の再会ができますように、最後に拍手でお見送りいただけると幸いです。今日はどうもありがとうございます。